

2022年5月18日

卒業生・事業所アンケート結果報告

—卒業生の学習の成果が仕事に反映されているか確認するアンケート調査—

キャリアセンター

山野上素充

このアンケートの目的

最近3年間に本学を卒業し、就職した卒業生の就職先での業務遂行に対する自己評価及び事業主の評価を聞き、今後の教育に生かすことを目的としている。

業務遂行とは言っても、職種が多岐にわたるので、1. コミュニケーションに関する領域:8項目、2. 短期大学で習得した能力に関する領域:7項目について卒業生本人及び就職先事業主に同様の質問用紙を送付し、それぞれに回答願った。

実施時期

2021年11月20日～ 12月20日

調査依頼数と返却数

	調査依頼数	返却数	返却率
卒業生	395件	47件	12.6%
事業主	264件	162件	61.4%

参考 2020年度実施アンケートの回収状況

	調査依頼数	返却数	返却率
卒業生	432件	86件	19.9%
事業主	294件	191件	64.9%

一般的に、郵送によるアンケートの回収率は、10%から40%にバラついており、一概に高い・低いとは言えないが、出身大学からの依頼に対する卒業生の返却率としては低いと言わざるを得ない。卒業生に対する調査結果では、「職場のルールや約束を守る」が全項目の中で細かいも最高点を取っているが、これは回答した者の結果で、回答しなかった者を含めるとどうなるか心配な領域である。

結果の集計

アンケートは Q1 から Q15 までの項目について、卒業生に対して、自分が 1. 十分でない 2. あまり十分でない 3. まあできている 4. よくできている の4段階評価を依頼した。また、事業主には、湊川短期大学卒業者について、同様の質問に対して、同じく1. から4. の4段階評価を依頼した。

アンケート結果を回答者ごとに集計しその合計点が高い回答者から低い回答者順に並べ「パレートの2-6-2の法則」で分類すると表 1のようになる。

表 1 パレートの2-6-2の法則による分布状況

	下位 20%の分布	平均的 60%の分布	上位 20%の分布
卒業生の自己評価合計点	1.93-2.73	2.80-3.33	3.46-4.0
事業主の評価合計点	1.53-2.53	2.60-3.46	3.53-4.0

この分布状況からみると、事業主の評価では下位の者についてはより厳しく、上位者に対してはより好意的に評価している傾向が見える。

卒業生の自己評価と事業主・附属園の評価比較

			参考	
		卒業生	事業主	附属園
Q1	相手の話を丁寧に聞く	3.40	3.41	3.25
Q2	文章を読んで理解	3.11	3.04	3.00
Q3	的確に話し伝える	2.82	2.93	2.50
Q4	的確に文章にし伝える	2.71	2.81	2.50
Q5	意見を伝え他者と協議・協力	2.96	3.03	2.88
Q6	相手の立場・考え方を理解	3.29	3.19	2.25
Q7	同僚との関係が良好	3.16	3.47	3.63
Q8	ルールや約束を守る	3.64	3.50	3.63
Q9	専門知識・技術	3.04	2.93	2.50
Q10	幅広い教養	2.96	2.82	2.50
Q11	問題発見・解決能力	2.96	2.72	2.25
Q12	コンピューター活用能力	2.80	3.05	2.75
Q13	リーダーシップ	2.36	2.43	1.88
Q14	チームワーク	3.02	2.20	3.13
Q15	精神的安定	3.00	3.06	2.63
平均		3.01	3.04	2.82

結果の考察

事業主の評価において、低評価と高評価に分かれるのは、ほとんどの事業所において3年間の卒業生受け入れが一人か多くて二人、また採用したが短期間で退職したケースもあり、「湊川短期大学卒業生」というよりも、個人に対する評価になり、中心化傾向されにくい結果が出ているものと思われる。

毎年実習生を受け入れるとともに複数人の本学卒業生を採用している、附属幼稚園・保育園長による評価には耳を傾けるべきものがあるのではないだろうか。附属園の評価は、3項目を除く12項目において事業主評価を下回る辛口であったことは掘り下げて分析する必要があるのではないだろうか。

以上